

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年11月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)		
	ファンド	ベンチマーク			
過去1ヵ月間	-4.82	-5.16	第10期	2017/1/25	300
過去3ヵ月間	-3.20	-3.06	第11期	2018/1/25	350
過去6ヵ月間	0.33	-0.72	第12期	2019/1/25	300
過去1年間	5.91	8.32	第13期	2020/1/27	350
過去3年間	12.00	13.90	第14期	2021/1/25	350
設定来	241.20	64.65	設定来累計		2,200

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	96.7
投資信託証券	0.0
その他株式関連証券	0.0
現金その他	3.3

※比率は対純資産総額

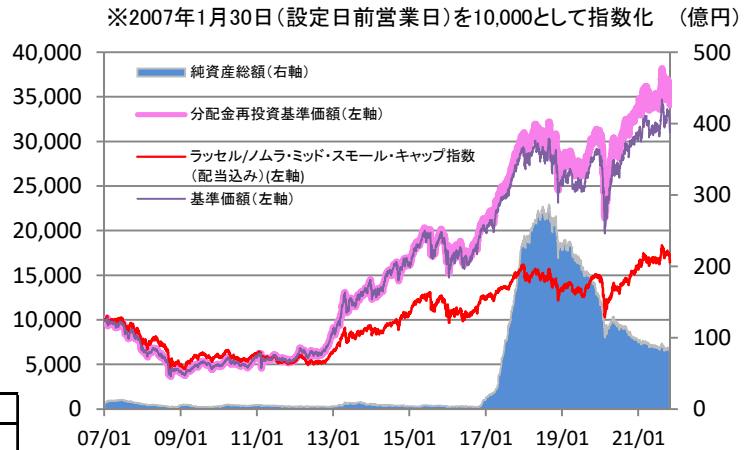
【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	91.4
ジャスダック	3.5
東証マザーズ	1.8
その他市場	0.0
株式組入比率	96.7

※比率は対純資産総額

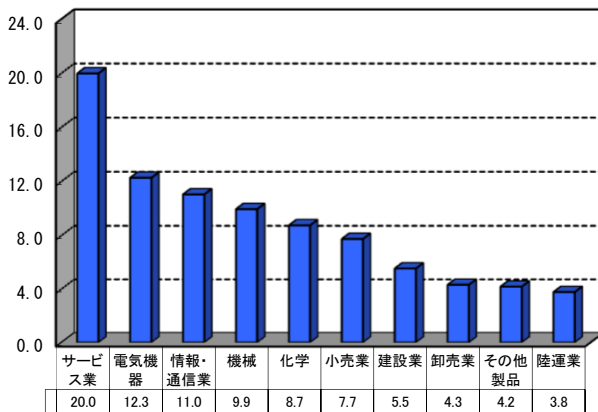
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
31,016 円	30,923 円	78.79 億円



※当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモール・キャップ指数(配当込)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。※基準価額は、信託報酬等控除後です。※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数:62銘柄)

	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	前田工織	東1	その他製品	4.2
2	センコーグループホールディングス	東1	陸運業	3.8
3	山一電機	東1	電気機器	3.4
4	NECネットエスアイ	東1	情報・通信業	3.3
5	バリューコマース	東1	サービス業	3.3
6	セブテーニ・ホールディングス	JQ	サービス業	3.2
7	三洋化成工業	東1	化学	3.1
8	日本光電工業	東1	電気機器	3.1
9	住友ベークライト	東1	化学	3.0
10	シークス	東1	卸売業	2.9

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は、当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。 ※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド
愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート

基準日 2021年11月30日

【運用担当者のコメント】

◆株式市場の状況

当月の日本株式市場は、衆議院議員選挙で与党が大方の予想よりも議席を多く獲得したことや、米国FRB（連邦準備制度理事会）パウエル議長が利上げに慎重な姿勢を示したことから、上昇して始まりました。

月半ばは、企業決算の発表が進み堅調な業績が確認されたことも株価の下支え要因となりましたが、国内外のインフレ懸念などが株価の上値を抑える展開となりました。

月後半には、新型コロナウイルスの変異種（オミクロン株）が確認されたことで、経済活動再開への期待が後退したことで株価は急落し、前月末を下回る水準で月を終えました。

この結果、TOPIX（配当込み）は前月末比3.61%の下落、当ファンドのベンチマークは同5.16%の下落と小型株が相対的には厳しい環境でした。

◆ファンドの運用状況

当月、当ファンドにおいては、山一電機などが上昇、一方でアウトソーシングなどが下落しました。山一電機は2022年3月期第2四半期決算で通期業績予想の上方修正を含む好決算を発表したこと、アウトソーシングは同社連結子会社による不適切な会計処理により2021年12月期第3四半期決算発表を延期したことが、それぞれ株価変動の要因と考えます。

投資行動の観点では、引き続き保有銘柄への買い増しとともに、株価が上昇し割安感が薄れた銘柄、当初の投資仮説から実態が乖離したと判断した銘柄の売却を行っています。また、投資需要の停滞により市場期待値が低下している一方、5G（第5世代移動通信システム）やIoT（モノのインターネット）関連需要の成長による業績と「市場の期待値」の回復が見込まれる装置機器メーカーなどに、新規投資を行っています。

◆今後の運用方針

新型コロナウイルスの変異種（オミクロン株）への先行き懸念や米国FRB（連邦準備制度理事会）によるインフレに対するスタンスの変化などを受けて、株式市場はボラティリティが高まる環境にあります。しばらくは日々のニュースフローに相場が一喜一憂する展開が続くと考えられますが、経済活動再開に向けた動きは、多少の遅れこそあれ逆行することはないと考えています。引き続き、中長期における成長機会に目を向け銘柄選別に努めてまいります。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)の

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年11月30日

(前ページより)

2021年は世界的な新型コロナワクチン接種の進展により、経済活動再開に向けた動きが確認され始めた一年でした。一方で年央からのデルタ変異株の感染急拡大はアジア地域をはじめとしたサプライチェーンの混乱を招き、半導体に代表される部材不足と、自動車などの生産計画引き下げをもたらしました。また、急速な需要回復に伴ったエネルギーの供給制約も発生し、コストインフレが实体经济に悪影響を及ぼしています。

このような環境にあって、当ファンドにとって今年は一転して厳しい一年でした。昨年に引き続き、個々の企業努力以上に外部環境の変化が大きく、銘柄選別が難しかった期間だったと認識しています。中でも、自動車部品などの製造受託を行っている企業のように環境の急変に翻弄された企業が「苦戦銘柄」として目に付きます。当ファンドでは、産業の水平分業化、地産地消化が進展する中で、自動車部品などの製造受託を行っている企業のプレゼンスが構造的に上昇していくと考え投資を行っています。コロナ禍で製造拠点の分散ニーズは加速しており、当初の投資仮説である「メーカーと製造受託業との関係性強化」は着実に進展しているものと考えられます。一方で、コロナ禍に起因する運賃上昇や部材不足により生産効率が低下し、短期業績の悪化を招き、株価が下落しています。ネガティブに捉えれば、製造受託業の収益は外部環境によるところが大きく、今回も事業リスクが露呈したという意味で、「収益の質が低い企業」であるとの評価がなされているという要素は否定できません。今後も新たな変異株の発生や外的環境変化はリスクでもあります。しかし、電装化の進展などを背景に新規プロジェクトが豊富に控えていること、顧客企業との契約見直しにより不採算化リスクの抑制が進んでいることなどから、リスク・リターンのバランスは着実に改善していると考えています。

今後も事業環境の変化は続きますし、全てを正確に予測することは容易ではありません。過度にリスクを避けるのではなく、上記事例で述べたように、リスクへの対応力やその後の事業展開の拡張性などに注目し、銘柄選別を進めます。

外部環境が不安定な局面においては、短期業績の動向や期待値の変化などが株価変動要因になりやすい状況がありますが、コロナ禍の収束が近づくとつれ、中長期での業績動向に投資家の視点が変化していくと考えています。ここ最近では企業との面談でも、以前に比べ「(業績は)コロナ次第」との発言が減り、自助努力に関する発言が増えてきた印象を持っています。これは企業が環境への適応を進めてきている証左であり、個々の企業の中長期に亘る経営戦略の巧拙が業績に影響を及ぼしてくると思っています。当ファンドの強みであるボトムアップ・アプローチを活かし、パフォーマンスの改善に努めてまいります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。